

「社会保障の解体は許さない！介護保険制度の抜本改善を！！」

STOP！介護改悪 介護ウェーブ2014推進ニュース -介護の“Big Wave”を広げよう！-



各地の介護ウェーブ ～署名はただいま 38856 筆

千葉 ◆11月10日 JR津田沼駅宣伝 16時から県連内の16事業所28名で、JR津田沼駅で1時間の宣伝を実施。福島の子どもが書いたというデザインのポケットティッシュに翌日の介護・認知症なんでも110番のチラシを挟み、民医連の介護ビラと一緒に配布しました。ティッシュとビラを渡しながら、「ビラをぜひ読んでください」と話しかけました。リレートークでは介護職が次々に訴えを行い、ティッシュ450個とビラは30分で配布終了。署名は70筆でした。

熱心に説明を聞いて署名する人、お子さん連れの若い人も署名に応じてくれました。準備をしている時から駆け寄ってきて署名をしていく人などもありました。



←夕陽を背に受け、訴える介護職部会長



対話しながら署名の訴え→



◆11月11日介護・認知症なんでも110番

今年の110番は、認知症の人と家族の会千葉県支部に申し入れを行い、当日の相談員として2名の役員を派遣していただきました。11月7日に相談員の事前交流会を行い、打ち合わせをして当日を迎えました。

電話2台、14名の相談員で、午前中は4件、午後は17件の電話相談を受けました。10月にも新聞記事を見ての相談がすでに2件来ており、合計23件という結果でした。NHKの13時のニュースで介護110番について流れたことが影響大でした。

認知症で介護拒否、サービス拒否が強いケースの介護者からの相談、遠距離で通い介護をしている介護者からの相談、介護者の苦悩や追いつめられた状況、特養待機者の家族の相談、有料老人ホームや介護事業所、ケアマネジャーとの信頼関係が作りづらい状況などが寄せられました。サービスは利用していても、どこにもはげ口がない、胸の内を聞いてほしいという介護者の訴えやご本人からの電話もあり、傾聴と共感をする中で最後は声が明るくなり、「相談してよかった」と言ってくださることで、相談員もホッとしたという報告がありました。また、民医連は医療と介護、共同組織の人たちとの連携の中で仕事をしていますが、このような相談活動を通じて感じるのは「介護保険が始まって15年経っても、介護サービス利用までにアクセスがスムーズでないケースが多い」ということです。「介護で一人の利用者、家族も泣かせないように介護保障を充実させなくてはならないと実感した」と、相談員から感想が寄せられました。

(千葉民医連 加藤)



「認知症の人と家族の会からの相談員も5時間相談を担当。民医連からは9名参加。

ベテランと若手職員で奮闘しました」→



愛知

11月8日(土) 14:00~16:30に「ドクター・ナース・介護ウェーブ」を行いました。

名古屋市栄リバーパークで集会(14:00~14:20)、パレード(14:20~15:00)、栄三越百貨店前周辺で介護改善署名(15:00~16:20)を行いました。医労連、自治労連、民医連から100名ほどの参加で、そのうち約60名は民医連でした。介護職の参加は26名で、介護改善署名は181筆でした。

愛知民医連介護職部会は、この秋のウェーブで、全体集会では介護現場の現状訴え、署名宣伝行動では、介護職員から介護職のやりがい、介護現場からの声をリレートークし、市民に訴えました。中でも「自分一人の力では何も変えることはできないが、みんなの力でなら社会は変えられる」と発言された声が印象的でした。

今回は署名行動にさらに力を入れ、署名用ボードを追加購入したり、いつものポケットティッシュやマスクなどの配布に加え、民医連新聞号外も。他に介護・認知症なんでも電話相談チラシと署名をしてくださった方にカイロ(介護職部会メッセージをシールに印字し添付)を配布しました。

(愛知民医連・介護職部会担当 なぼり)



山形

山形の本間病院の介護の日行動の1枚です♪ (いつでも元気編集部提供)



ケアワーカーのオリジナルキャラクター
「あったかこころちゃん」

「介護の日」
カイロ
配ってました。



総選挙は介護・医療・福祉を変えるチャンスです!

12月14日(日)は衆議院総選挙です。

白票投票や棄権は今の政治を承認しているのと同じことです。利用者さんや家族、働く私たちの生活、仕事を支えてくれる人をしっかり選んで投票しに行こう!



お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」 事務局：諏佐(すさ)・吉澤
☎ 03-5842-6451/fax 03-5842-6460/E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp